

子カルテ導入における標準的な業務フローモデルに関する研究」は、運用を基本とした研究である。研究の目的は、情報システムの導入をより効果的に進めるために、業務プロセスを可視化し活用する方法を研究し、病院で使用できる業務フローモデルのひな型を開発し、提供することである。また、調査により病院における情報システムの現状を把握することである。

成果を、「電子カルテと業務革新—医療情報システム構築における業務フローモデルの活用—」として出版した。ついで、2005・2006年度の厚生労働科学研究で部門内の業務フローモデルを作成し、2009・2010年度厚生労働科学研究

^{xvi}保健医療情報システム検討会：保健医療分野の情報化にむけてのグランドデザイン最終提言 (<http://www.mhlw.go.jp/shingi/0112/s1226-1a.html>)

で手術室内の具体的な3手術術式に関する業務フローモデルを開発した(図1、図2)。また、情報システム導入指導者養成のe-Learningの仕組みを作った(経済産業省事業費)。更に、基本要件策定の手引きを作成した。

15. 問題解決の方法

情報システムの専門家である開発側も要求する利用者側も、自分が何を必要とし、何を要求し、どのように表現すればよいか分からない。問題発生、紛争を防止するには、詳細な契約の締結よりも、相互の状況・要望・認識・考え方の理解が必要である。双方が、分かろう、分からせようという努力が必須である。これを顧客志向という。

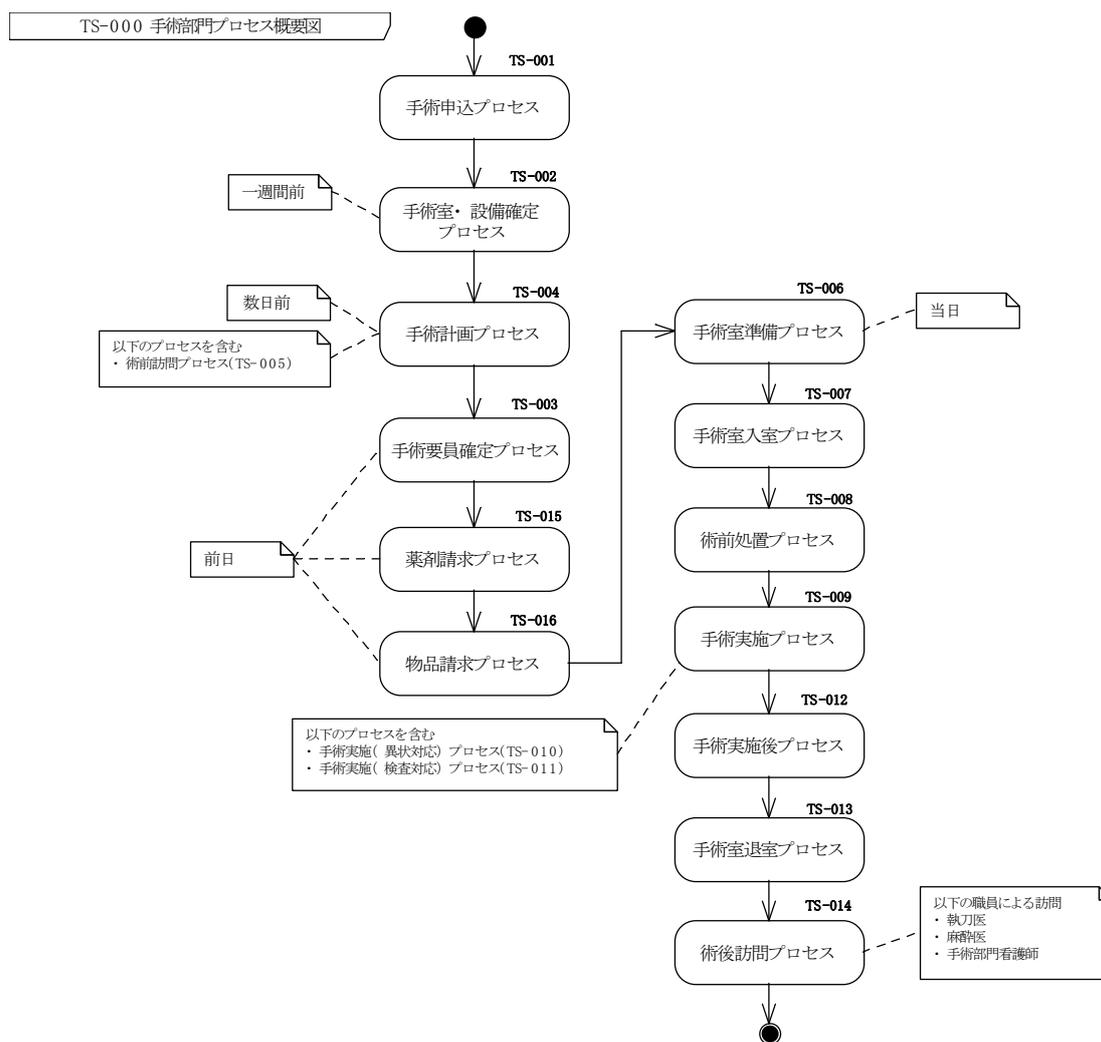


図1. 手術部門業務プロセス概要図